

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願い

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	憩室出血患者の治療成績の検討
研究責任者	聖隷浜松病院 消化器内科 丹羽智之
研究実施体制	聖隷浜松病院 消化器内科 吉井元、大城恵吾、玉腰裕規、志田麻子、遠藤茜、小林郁美、山田洋介、杉浦喜一、山中力行、木次健介、小林陽介、木全政晴、芳澤社、室久剛、長澤正通、細田佳佐
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ～ 2020年4月
対象者	2011年4月から2019年3月までに聖隷浜松病院に憩室出血で入院となった患者。
研究の意義・目的	憩室出血は大腸憩室からの出血を来す疾患である。憩室出血は緊急の入院、緊急大腸内視鏡検査にて止血処置を行う症例があるが、出血点の特定が難しいことが多い。また、高齢者の増加に伴い抗凝固・抗血小板薬の内服をする患者が増加しているが、出血を来している際にはリスクはあるものの抗凝固薬の内服中止がやむを得ない場合が少なくない。今回、当院において憩室出血で入院した症例を調査することで抗凝固内服中止の危険性、緊急内視鏡の有用性について検討する。
研究の方法	対象患者について、診療録から以下の項目の調査を行う。 症例の年齢、性別、造影CT所見、ショックバイタルの有無、緊急内視鏡の有無、併存疾患、入院時間帯、抗凝固・抗血小板薬の有無、入院期間、輸血の有無、入院中の再出血の有無、再発の有無
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報とは削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 消化器内科 (氏名) 丹羽 智之 TEL:053-474-2222(代表) 消化器内科外来 9:00~17:00 平日

(研究承認番号： 3277)

聖隷浜松病院/臨床研究審査委員会
2020年 2月 19日承認